

「私と新聞」親子作文コンクール

ニュースに親しみ強く

福島民報社が主催した第八回「私と新聞」親子作文コンクールの受賞者は十七日、福島市の民報ビルで行われた表彰式の後、新聞に一層親しもうという思いを語った。

記事を選ぶ視点から、成長を感じ取れる。今後も生活の一部として、親子で新聞に親しんでいきたい」と述べた。

受賞者は式後に作品朗読 大付属小二年は「日曜日や懇談で交流を深め、福島のジュニア新聞がお気に入り。民報社の編集局で新聞作り。水泳を頑張っているのを見学した。小学生の部で、スポーツの記事も読んで親子賞最優秀賞の長谷川でみたいと話した。母美香慶佑君(右)は「子どもが新聞に届く新聞の裏に、作る人



最優秀賞を受けた作文を朗読する小学生の部の長谷川慶佑君と母美香さん



受賞作品を発表する中学生の部最優秀賞の佐藤由菜さんと母陽子さん

編集局で新聞作りの見学を終えた中学生の部親子賞最優秀賞の佐藤由菜さん(四)は「毎日当たり前に届く新聞の裏に、作る人たちの苦勞や努力があると分かった。これからは思いをさせながら新聞を読みたい」と話し、三人の娘と共に新聞を読んでいるという母陽子さん(四)は「新聞は人生の羅針盤。娘たちにも、さまざまな人の考え方や生き方に触れ、人生の糧にしてほしい」と語った。

審査員を務めた県教育庁県北教育事務所の嶋原俊洋学校教育課指導主事は表彰式の講評で「新聞は趣味や好みにとらわれず、人としての幅を広げてくれるものと感じる。紙面上で出合う多様な意見や出来事を、自分の考えを形成するのに役立ててほしい」と話した。